

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190900108		
法人名	株式会社サンテ		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	埼玉県久喜市下早見1186-1		
自己評価作成日	令和5年 9月 14日	評価結果市町村受理日	令和5年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「こころ」は入居者様が安心して暮らすことができるよう家庭的な雰囲気やゆったりと過ごして頂けるよう努めている

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	kaigokensaku.mhlw.go.jp
----------	----------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●同敷地内に隣接するクリニックで受診しており、連携した健康管理体制が構築されています。特に機能訓練についてはコロナ禍にあって機能維持につながられています。
 ●毎月担当者により行事が企画・実行されており、利用者の楽しみとなるよう計画的な取り組みがなされています。特に誕生日会は月ごとではなく、その日・利用者ごとに行い、楽しいひとときが過ごされています。
 ●正職員比率が高い職員構成が実現しており、安定した運営につながられています。情報共有・連携などコロナ禍という未曾有の事態においても適切かつ慎重な支援とサポートが実現しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	東京都練馬区東大泉3-37-2		
訪問調査日	令和5年10月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はあるものの理念共有のため理念の提示をしている。	玄関や事務室への掲示を通して理念の周知に努めている。正職員比率が高い職員構成が実現しており、安定した運営につなげられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、ほとんど交流していない。	新型コロナウイルス蔓延防止のため、地域交流が中断・縮小を余儀なくされている。地域の催事にてホームに寄ってもらうなどできる活動にて継続を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法などは地域の人に対して発信はしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、実際の会議は行わず、資料配布し意見を頂戴している。	書面開催にて活動報告・運営状況がなされている。行政・地域包括支援センター・民生委員等に報告書を配布し、継続を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	以前よりお会いする機会は少ないが、何かあれば相談できる関係にある。	行政・地域包括支援センター・医療機関等関係機関と連携し、利用者のサポートにあたっている。地域の商工ネットワークから温かな協力を得るなど関係性が築かれている。	稼働率の向上とそれに伴う職員の安定や最適な配置を目標としている。各種取り組みをしているものの更に地域への広報や連携方法を探る必要性を認識している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する事業としての姿勢年に3回の内部研修を通じて取り組んでいる。他、年に1度は運営推進会議の場を用いて身体拘束の検討会議を行っている。	委員会・研修を定期的に行い、適切な支援に対して指導にあたっている。かしまることなく自然なケアを心掛けており、バランスと配慮をもつことを目標としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、年に1回は内部研修を通じて学ぶ機会を設け、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については管理者が把握しているものの、積極的に学ぶ機会を設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬改定の際には変更点をご家族に説明し同意書を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等については契約時に重要事項説明書に受付窓口として外部の窓口を含め記載している。	感染症・取り巻く環境を考慮し、家族等との面会を徐々に緩和している。「なるべく訪問してもらえるよう依頼する・写真にて様子を伝える」等工夫に努め、関係性の継続に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見を聞いているが、その他にも定期的なカンファレンスや会議などを通じ意見や提案を聞く機会を設けている。	全体およびフロアごとにカンファレンスを開き、情報共有にあたっている。特に利用者ごとの状況変化や申し送りに注力がなされており、その記録は議事録におさめられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は直接会議に参加し、管理者より意見を聴くなどし職場環境についての意見を聞く機会を設け整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に2回、その時の課題に応じ法人全体で研修を行う機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為外部の研修等控えていたが、徐々に再開していく予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報収集の際には直接本人とお会いする機会を設け不安な事があれば解決できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族については相談の段階から直接お会いし要望等について出来ること、出来ないことを含め返答し、安心して入居に繋がるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の段階で「その時」必要な介護計画を作成し提示している。入居後落ち着いた段階で再度計画を作成し見直しをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の生活の活動はなるべく一緒に行うようにしているが、入居者の状況等により出来なくなる時もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者に対し、ご家族でないと対応できないことなど協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が会いたい人や行きたい場所など可能な限り実現できるよう努めている。	家事や縫い物など入居前からの趣味が継続できるよう配慮している。誕生日会は月ごとではなく、その日ごとに行い、皆で祝う習慣が形成されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立しないよう、会話の間に入り支援したり共同作業の際には声をかけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でもボランティアを通じ関わって下さるご家族もいる。なお、相談があればいつでも支援できるような体制はとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人の意見が見えるような支援をしている。意向を示すことが困難な入居者にはご家族を通じて検討している。	入居時に生活歴・既往・利用者と家族の意向を確認し、状況を把握したうえで迎え入れられている。協力病院や関係機関との連携から情報を収集し、ミスマッチのないよう意向や状態を確認して入居準備が進められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り情報は徴収しているが、十分でない場合もあり入居後追加の情報収集も多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の有する能力に応じた支援をしている。その日の心身の状態に対しても申し送るなど対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に担当御社会議を開催し意見やアイデアを徴収している。	利用者・家族の意向を基にケアプランの策定がなされている。生活訓練機能向上に対してリハビリテーションがなされており、コロナ禍にあってもその注力により機能維持が図られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子を記入する「生活記録」を個別に記入する他、「連絡ノート」なども活用し、必ず伝えなくてはいけないものと区別している。それをもとに介護計画をさす精している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は既存のサービスのみで多機能化は計れていないがニーズがあれば可能な限り多機能化に鳥雲たいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源はおおむね把握できているが、協働は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医に対し、適切な医療が受けられるよう連携し支援している。	同敷地内に隣接するクリニックで受診しており、連携した健康管理体制が構築されている。特に機能訓練についてはコロナ禍にあって機能維持につながられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者に対する日頃の情報や気づきなど相談の段階から隣接しているクリニックへ昼夜問わず連絡し、対応や受診の判断を仰ぐなどしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関が隣接している為、常日頃から情報交換や相談等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の病状に応じ、緊急時の対応を含め、早めに話し合いを設けている。	入居時に重度化と終末期の支援に対する指針を明示している。状態と意向、医療機関の提言等を勧告し、将来の支援や生活場所の選定をサポートしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルはあるが、訓練等は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時のマニュアルはあるが地域との協力体制は築けていない。	定期での避難訓練・消防訓練の実施がなされている。火災・夜間等の想定のもと実施がなされており、様子の写真も含めて記録がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人に対し人権を尊重した言葉かけを行っている。	利用者への接遇は一人ひとりの自尊心を重んじた支援となるよう心掛けられている。夜間帯など職員数が限られた状態でも維持できるよう指導・配慮等に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望など、自己決定ができるような働きかけはしているが、十分でない事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や就寝時間など本人の意見を尊重し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に来た衣服などがある方や化粧をしたい方、整髪などにはその都度対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	火を使う作業などは職員が行っているが、ご本人の希望に応じてできることの支援をしている。	本年度より調理・提供方法の変更がなされており、職員負担の軽減・栄養バランスへの配慮を向上させている。利用者の家事参加については行事等にて補完に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や飲水も一人一人の能力に応じた形状や種類にするなどし支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行うことで清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間をチェックする事で排泄の失敗を防ぐことができるよう声掛けや誘導を行っている。	排せつ等日々の状態については、全体・個別・データと分けて記録されており、確認と保管がなされている。昼夜で使用装具を変えるなどなるべく自立を維持できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防の為に運動を促したり、乳酸菌飲料を勧めたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は決めているものの、入りたくない日や用事がある時には、日にちや時間を変更している。	利用者の意思を尊重し、無理なく入浴が実施できるよう工夫に努めている。浴室・浴槽・脱衣場等の衛生と安全が確保されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じて入居者それぞれ、居間で休んで頂いたり、居室で休んで頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬の効果や副作用については把握しており、必要に応じて医師や薬剤師へ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全ての入居者ではないが生活の中に楽しみ事や役割を持っていただくよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人のその日の希望には応じられていないが戸外に出かけられるよう支援はしている。	毎月担当者により行事が企画・実行されており、利用者の楽しみとなるよう計画的な取り組みがなされている。またレクリエーション・体操・歌唱等出来る支援にて利用者のストレス緩和となるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、お金が無くなってもよい程度の金額を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば、自分からかけたいところに電話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上、迷うことが無いようシンプルな造りをしている。季節感が分かるよう、掲示板には季節の飾りつけをしたり、大きめの時計を設置している。	新型コロナウイルスの分類変更後も感染症防止対策を維持し、消毒・換気等の対応に取り組んでいる。トイレ・浴室・廊下・リビングも清潔が維持されており、日々の清掃への注力を理解することができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを置き、一人でもゆったりできる場提供している。普段から気の合った入居者同士が談話をしながらくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ自宅で使っていた馴染みの物をご用意していただくようお願いしている。	利用者一人ひとりについてゆっくりと過ごすことができる居室が設置されている。日中は皆でリビングで過ごすことが多いことから特に昼食後からおやつまでの時間帯はテレビを見たり・横になったりとプライベートを大切にしよう配慮している。	職員配置はフロアを固定して行っている。今後は居室担当職員の配置を目指しており、職員間の資質の差等の是正や指導に努めていく意向をもっている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は安全に生活ができるような造りになっている。室内での掃除や洗濯干しなどができるよう工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	<ul style="list-style-type: none"> 空床があり、稼働率が上がっていかない。 体調不良により、現入居者が入院してしまう。 	稼働率の向上	<ul style="list-style-type: none"> 今現在の稼働率を保てるようにする。 体調管理をすることで入院等による空きの期間を少なくする。 各機関(居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、病院等)との連携により、空き状況や市内の施設の現状の情報を収集する。 	6ヶ月
2	54	<ul style="list-style-type: none"> 各入居者の状況把握がしっかりと出来ていない。 例: 申し送りの不足等 業務優先になりがちになってしまう。 	個別ケアの実施	<ul style="list-style-type: none"> ユニットを固定することで、入居者、職員間での周知を深める。 指定のカンファレンスだけでなく、常に情報共有することで、入居者の異常や変化に対応できるようにする。 	6ヶ月
3					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。